

かゑらじと かねて思へハ 梓弓

なき数に入る 名をぞとどむる

四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第114号

令和2年8月11日

発行=四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

安芸の小京都 広島県竹原市の魚問屋

頼家と交流のあった「鍵屋」の遺した家訓

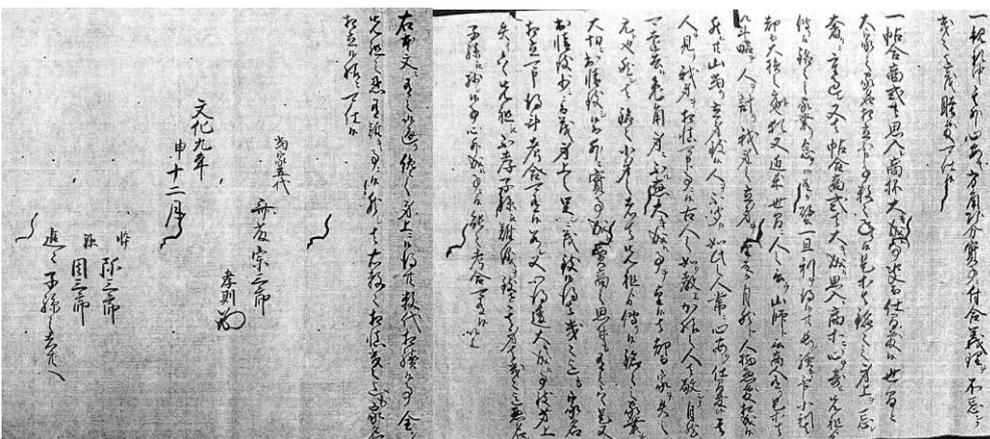
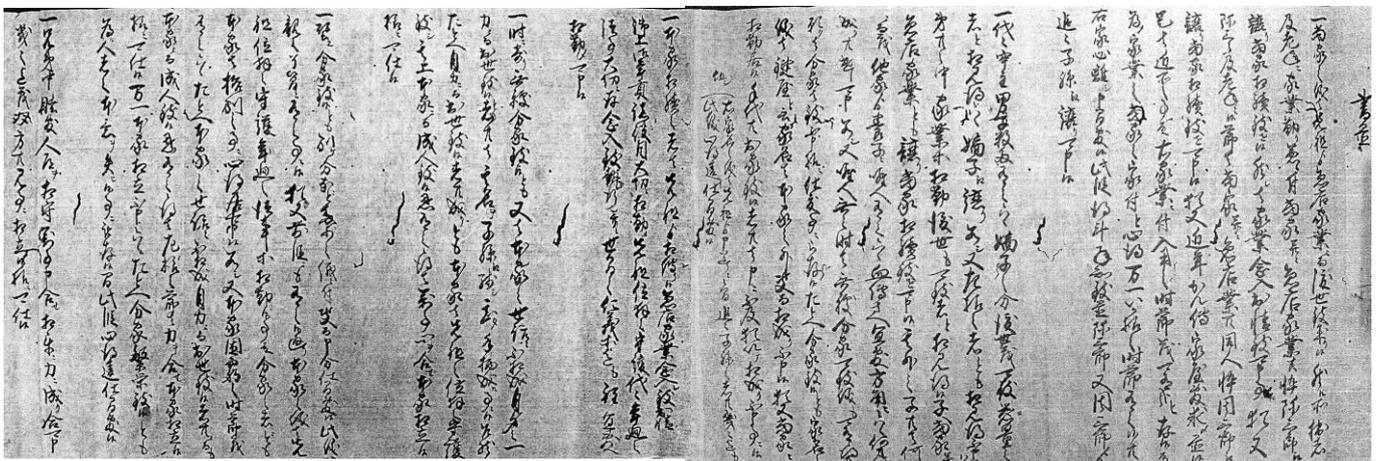
江戸時代、商人たちの経営理念が見える



● 広く知られる頼山陽肖像画も齋藤家蔵 ●

会員の一人、木村素子さんから「正行には直接関係はないのですが、私の祖母は竹原市の齋藤家の出身で、頼家とは盛んな交流があったようです。」と、竹原市・竹原市教育委員会が開催した展示会に齋藤家が寄附・提供した古文書のコピーをお預かりしました。写真：齋藤家蔵頼山陽肖像画

齋藤家は、屋号を「鍵屋」と称し、魚問屋を商っていました。5代目の宗三郎（寛保2年1742、87歳没）は、村役人として村政にも貢献した鍵屋の経営理念を示す家訓（「書き置き」）を遺しています。以下、紹介します。



この書き置きは、齋藤家5代目宗三郎が、家族や親族間、本家や分家の間でもめ事が起こらないようにと、息子弥三郎、孫周三郎に遺したものです。江戸期の家長の苦勞がうかがえます。

